

加齢性難聴の補聴器

購入助成について

日本共産党

高田 浩子

問 市民の加齢性難聴の方の把握について伺います。

答 令和5年度に行った、65歳以上の要介護認定を受けていない在宅生活者への調査では、外出を控える理由として「耳の障害・聞こえの問題等」との回答が6.3%あり、補聴器使用について「使用中・使用したいが高額」との回答は19%で、難聴者及び難聴と感じている方は一定数いると推測されます。

問 道内自治体の補聴器購入助成制度の導入状況について伺います。

答 対象が65歳以上5市・70歳以上1市・年齢制限なし2市・所得制限あり2市です。助成金の上限は、3万円1市・5万円2市・片耳5万円両耳10万円1市・補聴器交換券支給1市です。

問 放置すると認知症の一因になると言われていますが市の考えについて伺います。

答 認知症の発生の要因についてはたくさんあり、加齢性難聴も含まれているので、今後も認知症等の

介護予防に取組みます。
問 補聴器購入助成の考えについて伺います。

答 現状にある高齢者福祉サービス同様国での制度化が望ましいと考えていますが、来年度の介護予防等ニーズ調査の中で加齢性難聴についても詳しい調査を行い、助成についても検討していきます。
問 この一般質問は二回目であり、その間にたくさん市の町村が支援を行っている事からも、ぜひ早急に取組んでください。



ほかに「飲食店支援について」質問しました。

職員確保・育成と

専門性向上策について

創生会

石田 健太

問 少子高齢化や人口減少が進む本市において、行政需要は複雑化・多様化しており、質の高い市民サービスを継続的に提供するた

めには、より強固な職員体制の構築が必要と考えます。

職員の確保と育成、そしてその専門性の向上は、持続可能なまちづくりを進める上で不可欠です。

市民サービスのさらなる向上を目指すため、職員の確保状況と専門性の向上策について伺います。

答 職員の確保状況については、職員定数22人に対して実職員数は27人ですが、定数は上限の数です。

また、令和7年4月の新規採用において、予定した人数を採用できたことから、想定していた職員の適正配置数は確保しています。

専門性向上策についてですが、各職階において職員が業務遂行する上で必要な専門的知識及び技術の習得をはじめ、政策形成能力等の向上を図るための研修などを実

施し、職員の能力開発・育成・専門性の向上に努めているところで

です。
特定の分野に限らず、幅広い知識・視野で行政運営全体を俯瞰した形でみられるような人材育成が重要と考え、人事管理をしています。

ただ、行政運営が複雑化・高度化している中で、スペシャリストとジェネラリストのバランスを重要視した人事管理が今後必要になってくる時代と考えられるので、今後も人材育成に努めていかなければならないと認識しています。



人口減少対策について

創生会

山下 克己

問 平成28年1月に「砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しましたが、現状としては人口減少に歯止めはかかっていません。これからはより積極的な対策が求められるものと考えますが、砂川市の人口の推移とその傾向について伺います。

答 令和元年度末からの5年間の人口の推移は1千548人、9.3%減少しています。自然増減は出生数がほぼ横ばいで死亡者数は年々増加傾向、社会増減は転入者がほぼ横ばいで転出者は減少し、転出超過は年々減少傾向にあります。

問 移住定住促進事業の実績と今後の展開について伺います。

答 移住体験事業の利用者数は、平成21年度から令和6年度までで135組284名で、うち4組8名が本市に移住しており、引き続き移住の促進を図っていきます。

問 すがわ出会い創出支援事業の実績と今後の展開について伺います。



答 平成27年度から、イベント等を開催する団体への支援などを行っており、総参加者数は415名、うち48組成立し、引き続き出会いの場の創出を支援していきます。

問 シティプロモーションの現状と今後の展開について伺います。

答 パンフレットの配布、本市の施策・助成制度の紹介などの広報活動や、市ホームページで各種情報を発信しています。今後も同様に本市の魅力をPRし、愛着の持てるまちづくりを進めていきます。

モータースポーツ大会

創生会

伊藤 俊喜

の歓迎体制について

問 オートスポーツランドスナガワでは毎年、全日本ダートトライアル選手権、全日本ジムカーナ選手権が開催されており、全国のトップレーサーが砂川市に集結しています。地元開催地としてどのような歓迎体制なのか伺います。

答 大会の後援を行うとともに、市長が名誉大会長に就任し、プログラムに歓迎を込めた挨拶文を掲載しているほか、観光協会と連携しながら「まちなか交流施設すないる」でポスターの掲示やホームページによる情報発信を行っています。

問 私の調査では、ドライバーのほか、メカニック・メディア関係者及び大会関係者など2大会合計で1千842泊しており、砂川や周辺自治体にも大きな経済効果を生み出していると考えます。

砂川市としての受け止めについて伺います。

答 宿泊数はかなり多いと感じていますが、現実には砂川市内の宿

泊数は少ないと把握しています。

問 私はこの大会に毎回行っています。関係者の話しによると、市をはじめ地元関係者はコロナ以降、出席していないと聞いていますが、この点について伺います。

答 先方の受け止めとは違い、市職員は挨拶に伺っています。その場での情報交換はできていないと考えます。

問 飲食店やホテルで「大会歓迎」の札を貼り出す等お金をかけなくてもできることがあります。開催地として大会に寄り添ってください。



砂塵を上げ疾走するダートトライアルの車両